



夕暮れどきの温泉街。瀧見館からは遊歩道で5分足らず



瀧見館の玄関

銀山温泉 瀧見館

【山形県尾花沢市】



達人の旅指南
フリーライター
加藤隆悦

みちのく
ココロと
カラダの
癒し旅

vol.67

そば処 瀧見館

温泉街の一番奥にある「そば処 瀧見館」。創業時はここで旅館を営んでいた。現在の宿が左上に見える

レトロで人気の 銀山温泉

長く続いた酷暑の日々から一気に冷え込み、しのぎやすい秋の日和を楽しむ間もなく、もうすぐ本格的な冬を迎えようとしている。季節の移ろいは、願わくばもう少し穏やかであってほしいものだ。せめて大雪の冬にならないでくれればいいのだが。

東北の古くからある温泉地の多くは、近郷近在の農民が農閑期の保養に利用してきた。そのために真冬でも湯治客でにぎわっていたものだ。山形県尾花沢市の銀山温泉も、そんな湯治場由来の温泉の一つ。

温泉そのものの発祥は江戸時代のようにだが、昭和元年に高温多量の源泉がボーリングで掘り当てられてからは、現在の木造多層階の宿が立ち並ぶ銀山温泉独特の景観が形作られ、戦後になると次第に湯治主体から観光主体の温泉地に移行してきた。NHKの連続ドラマ『おしん』の舞台になったことも銀山温泉の人気に拍車をかけた。



温泉街の足湯

宿から少し下がったところで「白銀の滝」を一望できる



温泉街を離れて
岡の上に建つ
瀧見館

静寂と料理を 堪能する宿

瀧見館は細長い温泉街の一番奥に昭和36年に開業した。館名は目の前にある白銀の滝にちなむ。開業当時はやはり湯治客主体であったため、現在となつては設備が観光客向けでなくなり、11年前に旧館裏手の山の中腹に新しく宿を建て直した(旧館は現在もそば処として営業中)。

現在の宿は客室数14室とこぢんまりしていて上質にあつらえられた和室が心地よい。温泉街から一軒だけ離れ

ていることもあって辺りは静寂に包まれており、「大人の隠れ家」といった趣きもある。名士がお忍びで泊まることもあるようだ。

古くからのなじみ客も多いようだが、目当てはきつこの宿の料理だろう。四季折々の旬の味覚を大事にしているのはもちろんだが、一見すれば仕込みに手間を惜しんでいない料理であることがよく分かる。料理長のこだわりが伝わってくるような料理。味にうるさい人ほど訪れる価値のある宿といえるだろう。和食と洋食を選べる朝食も例を見ないほど多彩な内容だ。

温泉は無色透明無臭のクセのないナトリウム・塩化物・硫酸塩泉。屋根のかかった露天風呂は雨や雪の日でも楽しめる。人工物が目に飛び込んでこないロケーションなので、雪見風呂も存分に満喫できる。

冬の湯宿で 贅沢に過ごす

銀山温泉は全国的にも人気の温泉郷なので、行楽シーズンの予約はなかなか難しい。人の動きが一段落する冬場が一番の狙い目かもしれない。温かい湯につかり、おいしいものを食べて、部屋の



朝食も手間を惜しまない
ごちそうが並ぶ



お造り



庄内豚の蒸ししゃぶ



山形牛のトマト煮



かいもち(そばがき)
揚げフカヒレのせ



岩魚塩焼き



香茸御飯と芋子汁



そば自慢の宿なので食事にも
手打ちそばがつく

野趣満点の露天風呂。
雪見風呂も楽しめそうだ



銀山温泉 瀧見館

GINZAN-ONSEN TAKIMIKAN

〒999-4333 山形県尾花沢市銀山新畑中山522

TEL.0237-28-2164 FAX.0237-28-2528

http://www.takimikan.jp/

お一人様(1泊2食付き) 17,850円～

(料金はスタンダードプランの場合、税・サ込)

※この他にも、各種宿泊プランがございます。詳しくはHPをご覧ください。

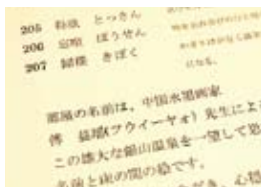
【施設のご案内】

●客室14室 70名様収容 ●大浴場(男女)・露天風呂(男女) ●宴会場(最大50名様収容) ●食事処 ●売店

【地図】



客室名の名付け親は
女流水墨画家の傳 益瑤
(フウイヤーオ)氏



客室は全室上品な雰囲気のと和室

窓から雪景色を眺めてのんびりと過ごす：そういう贅沢を満喫していただきたい。

銀山温泉へは、秋田市からだ秋田自動車道と湯沢横手道路を利用して約4時間の道のり。鉄道では山形新幹線の大石田駅が最寄り駅となる。駅から銀山温泉まで午後4便の路線バスが出ている。宿の送迎車も所定の時刻に大石田駅から出ているので送迎希望の場合は3日前まで要相談となる。

この宿は中国の著名女流水墨画家と親交があり、ロビーの水墨画や全客室に掛けられた画はすべてこの宿のために描き下されたもの。そんなしっとりとした大人のための宿で、この冬のひとときを過ごしてみたいかがだろうか。

(文・写真)かとうりゅうえつ(秋田市)